■日本燃焼学会創立50周年記念特集■
再録：燃焼研究第82号(1989) 1-2

日本の燃焼研究の発展に向けて

日本燃焼研究会会長　平野　敏右

日本燃焼研究会は，発足して35年になりますが，その創設の役割を十分に果してまいりました．すなわち，燃焼の科学・技術に関する情報誌としての会誌の発行，燃焼に関連する知識や意見を交換する講演討論会の開催，わが国の燃焼研究者の成果を総合的に発表する燃焼シンポジウムの運営，他の学協会との協力等であります．さらには，The Combustion Institute (国際燃焼学会) の Japanese Section として，同学会の運営への参画や各種国際会議の企画・実施等の実績を挙げてまいりました．

昨今の世界的趨勢は，安全の確保，環境の保全に配慮しつつ貴重なエネルギー資源を有効に利用する方向に向かっております．これまでに蓄積されてきた燃焼の学理・技術を最大限に利用し，燃焼研究の成果を集約して事に当たる時期にきていると云ってよいでしょう．この様な情勢のもとに12月初めに福岡市で開催された第27回燃焼シンポジウムにおいては，3日間に171件の講演が行なわれ，参加者は430名に達しました．九州大学の小野，城戸両教授をはじめ運営に当たられた皆様のご苦労は，大変なものであったと伺っております．

以上の現状からみて，今や，日本燃焼研究会のこれまでの活動の範囲を超え，燃焼に関する科学・技術の発展に寄与する学会がわが国に必要であると考えます．日本燃焼研究会は，その組織を強化して，わが国に於ける燃焼研究の中心となる学会の母胎となり，燃焼をとりまく内外の情勢に的確に対処して行くことが要請されております．

日本燃焼研究会を学会に発展させ，その使命を果たすためには，まず会員の数を増すことが必要であります．会員各位の身近で，燃焼に関連する活動に従事されており，まだ日本燃焼研究会の会員でない方がおられましたら，是非入会をお奨めください．また，維持会員として日本燃焼研究会の活動を援助していただける団体がありましたら，ご紹介頂ければ幸いです．

会員各位のご理解とご協力を得て，なるべく早い機会に日本燃焼研究会を学会に移行させ，正会員および維持会員の数の増大とともに，会員へのサービスを充実させて行きたいと考えております．さらに，将来適当な機会に法人化を図り，燃焼に関する科学・技術を発展させる使命を果たし得る強力な組織に致したいと望んでおります．

会員各位のご理解・ご協力を切にお願い致す次第であります．

再録：燃焼研究第85号(1990) ii後

日本燃焼研究会から日本燃焼学会への移行について

日本燃焼研究会会長　平野　敏右

さきに「燃焼研究」第84号(1990年8月)に「会告」として掲載し，会員諸氏のご意見を頂いた「日本燃焼学会規約」が，11月27日，第28回燃焼シンポジウムの会期中に行われた燃焼研究会の総会において，原案どおり可決されました．これにより，来年(1991年)1月から日本燃焼研究会が，日本燃焼学会に変わり，これまでの幹事には，理事として学会のお世話をして頂くことになりました．

日本燃焼研究会は，発足以来36年にわたって，日本における燃焼研究者の成果の発表や燃焼に関連する知識や意見の交換を推進する中心的な役割を十分に果してまいりました．すなわち，燃焼に関する科学・技術情報誌としての会誌の発行，講演討論会やシンポジウムの開催，国内各学協会との協力，また The Combustion Institute (国際燃焼学会) の Japanese Section として同学会の運営に参画するな

ど，各種国際会議の企画・実施等多くの実績を残してまいりました．しかし，昨今の国際情勢およびその影響下にある国内情勢は，環境の保全，安全の確保に配慮しつつエネルギーを有効に利用する方向に向かっております．これまでに蓄積されてきた燃焼の学理・技術を最大限に利用し，燃焼研究の成果を集約し，事に当たる時期にきているといってよいでしょう．燃焼シンポジウムの参加者数や燃焼研究会会員数の増大は，この傾向を表わしていると考えられます．もはや研究会としての限界を超えた情勢にあったといえます．今回の規約の改正は，以上のような情勢への対処の一環であり，第一歩であります．

「燃焼研究」第 82 号 (1989 年 12 月発行) に掲載しました「日本の燃焼研究の発展に向けて」において述べましたように，日本燃焼研究会のこれまでの活動範囲を超えて，燃焼の科学・技術の発展に寄与できる母胎として日本燃焼学会を位置づけ，日本における燃焼の科学・技術に関する学会として，国内・外の燃焼をとりまく情勢に的確に対処してゆけるようにしたいと考えております．この目標を達成するために，日本燃焼学会を適当な機会に法人化し，燃焼の科学・技術を発展させ，環境保全，安全確保，エネルギー利用などの諸問題についても，燃焼の科学・技術に基盤を持つオピニオンリーダーとしての役割を果たしうる強力な組織となることを望んでおります．

今回の日本燃焼学会への移行を機に，会員各位のご理解とご協力のもとに，正会員及び維持会員の数の増大を図り，日本燃焼学会の充実と会員に対するサービスの向上を実現させて行きたいと考えております．

再録：燃焼研究第 86 号 (1991) 91

平成 3 年度役員 (敬称略)

○会長　平野敏右 (東大)

○理事　伊勢　一 (三菱石油)　池上　詢 (京大)
石澤静雄 (日産自動車)　伊藤献一 (北大)
大澤克幸 (豊田中研)　小野信輔 (九大)
香月正司 (阪大)　川口　修 (慶大)
河野通方 (東大)　斎藤武雄 (東北大)
神野　博 (上智大)　鈴木富雄 (神戸製鋼)
竹野忠夫 (名大)　辻　廣 (東京電機大)
徳本恒徳 (東京ガス)　豊永　肇 (大阪ガス)
平野敏右 (東大)　廣安博之 (広大)
福谷征史郎 (京大)　藤間幸久 (三菱重工)
宮内敏雄 (東工大)

○監査　田中良一 (日本ファーネス工業 (株))
井上二郎 (東京ガス (株) 技術研究所)

編集後記

「燃焼研究」第 85 号でお知らせしましたように，今年 1 月から日本燃焼研究会は「日本燃焼学会」に変わりました．「燃焼研究」もその本来の目的を達成するために努力を続けていこうと考えております．会員の皆様のより一層のご支援をお願いいたします．

日本燃焼学会としての会誌第 1 号の本号は，廣安理事 (広大) に担当していただいて，ガスタービンの特集としました．本誌に対するご希望などがございましたら，ぜひ編集部までお寄せいただきたいと思います．